

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	運営方針の中にも取り入れ、日々の生活の中でも地域の人々とのかかわりを大切にしている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者と職員は、日々のケアの中で介護を通して理念の実践を行い、理念の中から介護の本質を話し合っている。	運営方針をホームの目立つ所数か所に貼り、介護・介助の時でも目につくようにし、今行っている事が、この方針に添っているか常々考えて介護・介助を行うようにしている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	設立して間がない為、地域の人々には、先ず挨拶から行い、ホームが行う行事をお知らせし一緒に楽しんでいる。家族の皆さんには、行事への参加をお願いし、地区の人との交わりを楽しんで頂くようにしていく予定。	ホームで計画した夏祭りには、家族・地域の皆さんに呼びかけ、多くの方々の参加があった。又、日本舞踊や歌などを計画した時には、地域の方にも呼びかけ参加して下さった。ホームの前の畑に地区人が自宅の花苗を持参し植えて下さった。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ホーム前の道が、小学生の通学路や地区民の散歩コースになっておられる方が多く、朝夕挨拶を交わしている。又、通勤や田畑への通り道になっていることから、日常的に声をかけている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	ホームは自治会に加入し、自治会の皆さんが行事の毎にお知らせ下さり、ホームの方も行事の毎に皆さんに参加を呼びかけ一緒に交流している。	平成20年3月、春の神楽に呼んで頂き、利用者の方数名と参加した。地区の神楽の舞を楽しみ参加された。地区の皆さんとも交流した。ふたば保育園園児達との交流も行っている。(クリスマス会・卒園式参加・花見招待)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員会議で計画立案時、どうしたら地区の方々に参加して頂けるか討議している。		平成19年9月1日、「大河」の開設記念の花火大会を開催。地区の子供・お年寄り・ご近所の皆さんに声かけし、参加して頂いた。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	設立して9か月であり、自己評価をし日々意識しているところである。6月までには外部評価を実施予定。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームのことを理解して頂き、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		運営推進会議のメンバーである、相談員として委託している社会福祉法人道志会理事長が月2回程来訪され、利用者の相談を受けたり、雑談や余興で交わっていただき、施設にその内容につき説明や、アドバイスをいただいている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連携は行っている。		事業主が市の元健康福祉部長であり、市とのコンタクトはとれている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護に関しては職員会議で、事業主が講師として研修を行った。必要あれば支援できる態勢は整っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待事例はなく、虐待が起きない様、職員同士で相互監視に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に説明し、ゆっくりと読んで頂く時間を作っている。不安疑問等がないか尋ね、十分に説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、施設側は家族会で席をはずし、家族から出た意見等を推進委員から発表してもらい運営に反映している。	日頃から家族の皆さんに不満・苦情を聞くようにしており、苦情・不満を言われた時は、すぐ取り入れかえられるものはかえて運営に反映させたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「大河通信」で利用者の日常をお知らせしている。又、面会に来られた時など個々の報告を行っている。家族の方は、月2・3回は面会に来て下さる。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折、意見・苦情をお聞きしている。又、玄関には苦情用紙・意見箱を設置し、職員に知られず記入・投函ができる。	職員会議で家族の意見を検討、協議して解決策を見出している。施設の相談員である、社会福祉法人理事長が相談を受け、アドバイスを頂いている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で、職員の意見を聞くようにしている。日々の仕事の中でも気になる事は何でも聞き、良い事はすぐ仕事に反映させている。	何でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整は、利用者の状況に応じて柔軟に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は、利用者のやむを得ない状況により1回行ったが、それ以後は行われていない。介護職の転職率は、1年に20%、2年に40%、3年に80%と言われるが、当施設はオープン以来辞職者はいない。	姉妹施設の年輪の職員の定着率も高い。キャリアパス等の奨励により職員に働きがいのある職場である事を、事業所の目標ともしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	市・県の研修計画があれば勤務に支障がない限り、職員を研修に出し職員会議で行けなかった職員の為に報告し、お互い勉強しあっている。ベテラン職員によるOJTも常に行っている。	事業所としてキャリアパスを支援し、認知症ケア専門士、学習療法士1級、介護福祉士等の資格を取得した。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡協議会に参加し、お互いの活動を通して力量アップを目指している。	潤和会記念病院系の「グループホーム悠々」様との相互訪問を5月から2か月に1度行う事で、この度合意した。「悠々」様の豊富な経験を学び、サービスの向上に役立てたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員間で気兼ねなく話せる雰囲気があり、悩み等ある時はじっくりと聞く雰囲気を作っている。	施設には広い花壇があり、四季折々の花々が咲き心を癒してくれる。家庭菜園で穫れた新鮮な野菜を、職員にも提供し、事業主と職員の一体感を創出している。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	向上心のある職員達なので、その思いが沈む事なく続けられるようホーム長はじめ皆で協力している。	新たに資格を取得した場合は、手当てにより処遇している。レクリエーションや手芸等でアイデアを出してくれた職員には、事業主がタイムリーに感謝の言葉を述べている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	御本人の力の限りを在宅か病院ですごされてから入所される方がほとんどなので、利用されてからの相談が主になる。このホームでの不安な事、生活面で困っている事など何でもお聞きしている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	御家族の力のぎりぎりまで在宅で介護されてから入所される方がほとんどなので、利用されてからの相談が多い。利用されてからは、面会の都度、介護の希望、生活面の希望等をお尋ねし、受け止めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各制度の学習、研修に努め、適確なサービスを提供していきたい。 4月から1人の利用者が医療保険の適用が可能で、訪問看護を受け入れている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所されてからしばらくの間は、家族の皆様の面会を多くして頂き、寂しさをあまり感じない様にしている。又、担当の職員を決め、話し相手や相談相手になるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様毎に担当を決め、その方と喜びや哀しみを分かち合い、頼り合える関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の方との連絡を密にし、家族と共に介護させて頂く関係作りを実行している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の来訪の折や電話等により、常に家族の思いや希望を聞くと共に、何よりも本人の意向に添えることができる様に、関係の調整に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に利用されていた理美容所に同行したり、親交のあった人の情報を家族に伺い訪問をお願いしている。また本人が希望される場所に外出することに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、助け合ったり励まし合ったりできる関係になるよう、職員はクッションの役目やパイプのような役目を担い、良好な関係が築かれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方にも連絡を取り、行事には参加の呼びかけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本は、本人の思いに添えることが最優先の方針で対応している。 暮らし方の希望・やりたい事等望んでおられる方には、その意向をレクリエーション・行事等に重ね実行できるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族、面会に来られた方々から話を伺い、これまでの暮らし方、生活環境等の把握に努めている。		裁縫の得意な方とタペストリー(ひな壇)を製作した。今、こいのぼりのタペストリーを製作中。 畑でできた大根で”イカの手”と一緒に作り、今その干し大根が日々の献立の中に出ている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方についても家族の方、前施設の方などに尋ねたり、職員の細かい観察などで総合的に把握していくよう努めている。それぞれの方の得手、不得手な事も理解しており、タイムリーに用事を依頼したり、お手伝いしたりしている。		各利用者の個別日誌を作成しており、本人ができること、できないことをスタッフ全員が把握できるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、担当職員とケアマネでたて、家族の方に見て頂き、希望、変更、付け加え等を行っている。 各利用者の目標に合わせて計画し、生活の中で行うよう努力している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し時期には、家族と担当スタッフで見直しを行い、変化が生じた場合はその変化に即した計画を作成する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は仕事を終える前に直前までの個人の様子を個別日誌・ホーム日誌等に記入し、変化がないか、実践とは違わないかを見直ししている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護支援専門員、正看護師、介護福祉士等の専門性を活かしたアドバイスや、支援を行っている。また予備室は、緊急時や遠方からの訪問に備えて宿泊が可能であり、過去2回の利用もあった。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会長・民生委員さんが協力的で地区の行事に参加の呼びかけを下さったり、又、グループホームの計画(歌・踊りなど)も地区の回覧板で皆さんにお知らせして一緒に楽しんでいる。 赤江東中学校の体験実習の受け入れをして利用者にとっても良い刺激になっている。		昨年9月1日、開所記念として近所の方々をお呼びして、花火大会を行った。 月1回の音楽療法時には、地区にも参加を呼びかけている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護支援専門員や看護師のネットワークを通じて情報の収集に努めている。本年4月から医療保険適用が可能な利用者の訪問看護を受入れた。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働の実績はないが、コンタクトはとれている。 今後は、積極的に協働に向けて取り組んでいきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により、かかりつけ医が往診して下さるようになり(内科・歯科)職員も安心して介護を行えるようになった。かかりつけ医からは、家族との話し合いの結果を文書で報告していただく等、良好な関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		姉妹施設のグループホーム年輪の正看護師の意見を聞く等の対応をしている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		グループホーム年輪で看取りをした経験者が、職員会議で説明等を行っている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		亡くなられた方はいらっしゃるが、受診後そのまま入院となり、四日後には亡くなられた。今後の可能性もあるので職員一同で取り組んでいきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには十分な注意を行い、気が付いた者は即注意し合うようにしている。 記録はプライバシーを損なわない書き方をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望をお尋ねし、できるだけその思いに添う介護を行っている。各人のペースに合わせ、表情から希望を読み取り、思いに添える様に対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人の思いを取り組んだレクリエーションを行っている。 ホーム内での友達もでき、家族からは「ホームにきて、生き生きとしてきた」との感想を多くいただいている。	「今日は歌はないの？」とカラオケの要求をされたり、「縫い物はな～い？」とタペストリーの要求をされたり、皆さんいろいろ言うて下さるので職員は楽しんでいる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人の好みに応じた、身だしなみを行っている。 ホームへの出張理美容も受け入れている。	ご家族がおみえになって、昔からの行きつけの美容院へパーマかけに行っておられる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者の方と一緒に調理を行っている。 片付けも出来る方は食器を運んで下さる。	季節・行事に応じた献立を作っている。 ホームの菜園でとれた新鮮な無農薬の食材を提供し、「美味しい、美味しい」と好評をいただいている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時・15時のおやつの中には、お茶だけでなく本人が好まれるコーヒー等も提供している。 たばこは職員と一緒に楽しんでいる。	たばこは職員と一緒に決まった場所で吸って頂いている。 ライター等は職員が管理している。 買物デーの際に好みの品を買われ日々の生活を楽しんでおられる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを知り、その人の排泄に合わせて行っている。		はくパンツで入所された方も今では布パンツになられた。入所時は尿意・便意がなかった方が、今では「トイレ行こうかな」と尿意・便意を示して下さるようになった。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はその人その人の習慣やペースに合わせ、柔軟に対応している。		入浴時間がカラスの行水的な人から、ゆっくり入浴(20~30分)の方までおられる。その人に合わせ長風呂の方は血圧・体調等見守っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の調子やレクリエーション・行事等を考え、休息を支援している。ホームの周囲は田や畑、里山で自然豊かであり、景色を楽しまれたり、散歩で適度な疲れを感じてもらい、安眠につなげている。		花見等で外出した時は、早めの休息を行い、窓からの光で眠れない方は、窓にカーテンを着ける。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の得意な分野では職員や他の利用者が習い、教わる側と教える側が交代して、その人の生き甲斐や存在感が味わえる様支援している。		裁縫が好きな方は、タペストリーを作ってもらっている。牛乳パックで椅子作りに協力してもらっている。畑で出来た野菜の保存方法を職員が教わり、一緒に作業している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	努めて買物の機会を設定し、自分でお金の管理ができる人には所持していただき、職員がさり気なくサポートしている。	○	買物の行事を計画したら、必要以上に買物をされ病気(糖尿病)にさわり、医師より注意を受けたので、今のところ行っていない。これからは個別に対応できるようにしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲は散歩や外出に適し、車の往来のない農道や、ホームの花壇で花と親しんでもらっている。		家族との外出が多いので、利用者の外出は月1度位である。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に2回、社協のバスを利用して、利用者とその家族と一緒に出かけている。ご家族との外出も多く、気分転換を図ってもらっている。		平成19年11月は、青島のホテルで昼食を家族と一緒にいただいた。今年の秋も計画する予定である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・親戚・知人からの電話・手紙の支援は頻繁に行っている。又、こちらから連絡したい時は、移動可能な子機を渡し電話していただいている。		平成20年正月は、利用者から家族や友人へ年賀状をお出ししたりして、社会との結びつきを切らないよう、今後も努めていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人・友人等は、いつでも好きな時間に訪問されている。		生活相談員を委託している、社会福祉法人理事長が月2回程来訪されたり、地区の人が菜園の手助けで週2回程来られる等の交流もある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、全く行っていない。 仮に拘束しなければならない事態が生じた時は、一時的、切迫性があり、代替手段がない、の三原則を厳守し、家族の同意、職員の協議を経て慎重に行うことにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はつけていない。 朝6時すぎから夜まで、玄関の鍵はかけない。 センサーのチャイムで外出等の気付きをしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子は、職員同士連携を取りながら確認し、安全に配慮している。		ホーム内が広い為、時折ホーム内を巡視して利用者の所在・様子を確認しあっている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁などは流しの下別の場所に保管し、洗剤等は鍵のある収納場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・窒息はおきないように、しっかり見守っている。 誤薬は、二人の目で確認している。		喫煙される方がおられるので、喫煙時は必ず職員が同席し、ライターは職員が持っている。(利用者には渡さない)決められた場所で灰皿持参の上、喫煙して頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に備えて、救急訓練は順次受けさせているところである。 避難訓練は、月1回行うようにしている。		防火管理講習を受けさせ、その指導の元に月1回避難訓練を行っている。 AEDを設置し、職員に取扱いの研修を行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練には、利用者も参加している。 地域の方にも、民生委員さんにも災害時の協力をお願いしている。		災害時に備え、手作りの滑車付移動具を作成して、訓練も行っている。 スロープは両入口や各室から外に出れるウッドデッキの3か所がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の家族の皆さんにその人ごとのリスクを伝え、できるだけリスクの少ない介護を行っているが、それでも何らかのリスクが起きる可能性があることを話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、バイタルチェックを行い、変化を早めに見つける努力を行っている。又、変化に気付いた際は看護師と連絡を取り合い、速やかに家族に知らせ情報を共有し対応している。		体調の変化は、個別日誌に詳しく記入し、申し送りの際に、他のスタッフに適確に伝えている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日夜、職員が薬の配薬を行い、一人ひとりの薬について理解している。 職員会議で看護師より病気・薬・対応策など教えてもらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘は個別に対応し、看護師の指示のもとに医師より出された下剤を服用して頂いている。 体を動かすこと、食物繊維の多い物を調理で使うなど工夫もしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全員はみがきを行っている。出来ない方には介助を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、毎食後記入し、その人や病気を考慮した献立をたて調理している。切り方や量も、その人の状況に即して変化させている。		飲み込みの悪い方、むせる方にはトロミ食を行っている。切り方も一口大から、ミキサー食まで献立によりかえている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	秋口にはインフルエンザの予防注射を計画している。グループホーム年輪で策定した感染症予防対策マニュアルをコピーし、研修を行い実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は2日分ずつ買ってきており、新鮮で季節感のある食材で調理している。 食中毒の第1原因は、作りおきにあると思うので、調理は直前に行うよう心掛けている。		グループホームは広い菜園があり、無農薬で新鮮な野菜を毎日使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はゆるやかなスロープになっており、車椅子でも安全に出入りできる。 敷地の半分は畑で、季節の花と野菜を作っている。		四季折々の花を沢山植栽しており、家族や近隣の人にも親しんでもらっている。 近隣の人から、花の苗の提供も多くある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の南側にベランダを出し真夏の直射日光をさけ、雨のふりこみをさけ、風が直接当たるのを防いでいる。 利用者の皆さんは、その日の気分によってベランダで話されたり、外をながめたり、ゆっくりとすごされる。		グループホームの花壇で栽培している花を飾り、季節感を採り入れている。 廊下には絵画を掲示し、潤いを創出している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにテーブルと椅子を置いてあり、そこでは一人になれる。又、利用者同士の話もされている。ホールのソファや椅子では、みなさんと会え、話ができベランダや玄関横の椅子では、独りの時間がもてる。		玄関横に椅子を置く。その椅子に掛けるカバーを今作成中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた食器を持ってきて頂き、ダンス等も日夜見慣れたものを置いている。写真・小物等で本人の居心地が増す工夫をしている。		予備室があり、家族や友人が宿泊できるよう配慮している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	田園地帯なので風通しはよく、特に換気しなくても過ごせる。温度調整は、本人様の体調を考慮して行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は広く造ってある。特に廊下は車椅子をゆったりと押せるほどの広さがあり、自由に動きまわれる。		3か所のスロープを利用して、自由に屋外でも過ごせるようにしている。 キッチンや洗面台は車椅子対応の器具を設置し、利用しやすいようにしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗面所は車椅子の方でも利用しやすい型を採用しており、廊下、トイレ、脱衣所、風呂は手すりをつけて、できるだけ自分で動けるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには椅子・テーブルがおいてあり、話を楽しんだり、風や外の景色を楽しむ事ができるようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・その方のこれからの人生を、ゆっくりおだやかに過ごせるケアを職員全員で目指していく。
- ・その方がどんな状況に追い込まれようと、最後まで優しく配慮した深い介護を全職員で行う。
- ・その方と地域の方々が、まるで生まれ育った場所のように付き合えるよう全職員で援助する。
- ・その方とその方をとりまく家族の方にとって、落ち着ける、安心できる施設に、職員全員で努めていく。
- ・今後は利用者と共同作成した物（しめ飾り、イス等）の展示、販売を行い、生き甲斐を創出したい。